

# 長官就任にあたって



消防庁長官 大 沢 博

本年7月1日付で消防庁長官に就任いたしました。重責ですが、我が国の消防行政の推進に全力を尽くして参ります。よろしくお願いたします。

まずは、全国津々浦々で人命を守り、地域を支えてくださっている消防職員、消防団員の皆さま、そして消防行政に携わるすべての関係者の皆さまに、深く敬意と感謝を申し上げます。

言うまでもなく、日本は、自然災害のリスクが非常に高い国であり、近年では、災害が激甚化、頻発化しています。また、地震災害以外にも、線状降水帯の発生による豪雨、今年に入ってから頻発している林野火災、熱中症による救急搬送事案の増大等、国民が不安に感じる事案は枚挙にいとまがありません。私が就任してからの僅か1か月あまりの間にも、トカラ列島の群発地震、カムチャッカ半島付近の地震に伴う津波警報、熊本県等への大雨特別警報等が発せられました。これらの様々な事態に対処する消防組織への国民の期待が益々高まっていると感じます。私は、岩手県の三陸の出身です。東日本大震災では、津波により、街は筆舌に尽くしがたい被害を受け、多くの尊い人命が失われました。その際、消防職団員による賢明な避難誘導、救助等により、多くの命が救われました。住民の感謝の念は今も消えることはありません。このような、各地でのご尽力により、消防に対する住民の信頼感は極めて高いものと認識しています。その信頼を、維持し、さらに高めていく、その責任の重さを、改めて強く感じております。

私が心がけているのは、次の二点です。

一つは、現場の活躍を、最も重視するということです。そのために現場の声に真摯に耳を傾け、必要なことを一つ一つ、丁寧に進めていきたいと思えます。我が国の消防行政は、市町村を基盤にしており、地域に根差した組織です。一方、近年では災害の大規模化に伴い、緊急消防援助隊などの広域的な取組が進化してきました。国民保護事案への対処も求められます。このように消防も国家的要請に応えなければならない時代ですが、消防の力を支えているのは日々の訓練に裏打ちされた現場力です。現場力を強化することこそ、最も重要なことと考えます。

もう一つは、変化を恐れないことです。我が国も世界も、社会の大きな変革期にあります。国民を守るために必要な変化をおそれず、的確に対応していきたいと思えます。消火、予防、救急等、いずれにあっても、DXをはじめとした技術をどのように活かしていくのかが今後の消防行政の在り方を左右します。消防庁でも、今年度中に技術戦略を策定することとして、検討を重ねています。国民の生命、身体、財産を守るために、チャレンジする姿勢を忘れないようにしたいと思います。

こうしたことを踏まえ、令和8年度概算要求では、近年頻発している林野火災への対応も含め、ヘリ・車両・資機材等の充実を重点に掲げています。併せて、消防団の加入促進にも力を入れたいと思えます。また、消防防災分野のDX/新技術を推進するための予算の確保にも努めます。もちろん、予算以外も含め、一つ一つの課題にしっかりと向き合ってまいります。

皆様とともに歩み、皆様とともに汗をかいていきたいと思っています。そして、国民の期待と信頼に応えられるよう、全力を尽くしてまいります。どうか、よろしくお願いたします。